

西濃農林事務所の普及活動状況（令和7年4月）

今月の重点活動

■葉物野菜 有機農業推進に向けた普及活動成果を報告

4月15日、JAにしみの神戸集出荷センターで、下宮青果部会協議会の令和6年度通常総会が開催された。農林事務所は総会後の研修会で、「葉物野菜産地の有機農業推進に向けた取り組み」と題し、3年間の有機農業推進プロジェクトチームの活動成果について報告を行った。

「夏の太陽熱消毒による雑草抑制」「有機JAS適合薬剤による薬剤散布体系」「土壌診断に基づく有機質肥料施肥」の3つの成果は、慣行栽培でも応用でき、まずはどれか一つでも取り組んでほしいと生産者に呼び掛けた。

農林事務所は、今後もみどり戦略推進に向けた取り組みを支援する。



【総会の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■西濃青年農業士会 第46回通常総会を開催

西濃青年農業士会は4月17日、第46回通常総会を開催した。

今年度は新たに2名が加わり、13名の新体制でスタートした。異なる品目を生産する会員同士の意見交換の時間もあり、切磋琢磨しながら、西濃地域の農業の担い手となる決意が示された。

農林事務所は、今後も研修会の企画や農業士会の運営支援を行っていく。



【青年農業士総会】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■スマート農業 可変施肥の実施計画検討

4月17日、農事組合法人大垣南において、大垣南の担当者と関係者（全農岐阜、JAにしみの大垣営農経済センター）が参集し、7年度産ハツシモ採種ほ場における可変施肥（基肥）の計画について検討した。

全農岐阜がザルビオの地力マップを基に作成した施肥量（案）について、ほ場の特性や過去の生育状況から検討を行い、基肥の施用量を決定した。

農林事務所では関係機関とともに調査を行い、優良な種子生産に向けた支援を行う。



【計画検討の様子】

■小麦 採種ほ場で出穂期審査を実施

4月11日、海津市内において、農林事務所職員と関係機関担当者により、小麦採種ほ場の出穂期審査を実施した。審査は優良種子確保を目的に、県が定めた審査マニュアルに従い実施した。

海津市では、市内2法人が「さとのそら」の原種ほ場1.5haと一般種子ほ場50.4haを作付けしており、審査の結果、全筆が合格となった。5月中旬頃には糊熟期審査を実施する予定である。



【小麦出穂期審査の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■加工業務用タマネギ 関係機関と生育状況を確認

4月4日、西濃管内のタマネギの生育及び病害虫発生を確認するため、JAにしみのTAC室及び

全農岐阜営農対策課とほ場を巡回した。

今年は降水量が少なく、気温は低いため、ベト病やアザミウマ類の発生は例年より少なかったが、病害虫を確認したほ場では、防除の実施や今後の栽培管理を助言した。

農林事務所では、生産者の所得向上のため、収量の向上と実需者の期待に応える高品質なタマネギが安定供給できるよう支援していく。



【タマネギの生育確認の様子】

■夏秋なす 定植作業順調に進む

J Aにしみの海津茄子部会（会員4名）では、4月15日に3名の会員に苗が配布され、16日から順次定植作業が行われている。また、ハウスの半促成栽培の1名は、4月4日から出荷が始まっている。

夏秋なす栽培では、青枯病や半身いちょう病の土壌病害が問題となっており、今年度は耐病性台木と土壌消毒の種類や実施の有無の違いによる実証を計画している。農林事務所では、今後防除対策の確立に向け支援を行っていく。



【夏秋なす定植の様子】

■いちご アブラムシ天敵実証ほの調査

輪之内町園芸組合イチゴ部会の令和農園ほ場において、アブラムシに対する天敵コレマンアブラバチとカメノコテントウの実証ほを設置しており、4月8日に天敵と害虫の発生状況調査を行った。

バンカープランツ（小麦）には多数のアブラムシ、マミーが生存し、アブラバチ、カメノコテントウも生存していた。一方、イチゴには天敵は多少見られたがアブラムシは見られず、アブラムシ発生の抑制が確認できた。



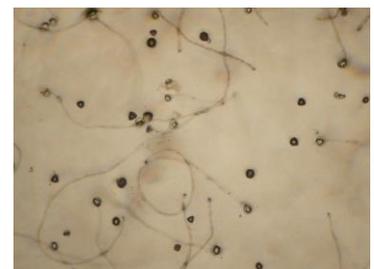
【実証ほのバンカーの様子】

■なし なし花粉の発芽調査

4月9日、南若森園芸組合を対象に、なしの花粉の発芽調査を行った。なしは人工受粉を行うため、安定・多収生産のためには、使用する花粉の発芽率の確認が必要である。

当日の朝、生産者が花粉を持ち寄り、あらかじめ農林事務所が準備した寒天培地の上に花粉をまいた。その後、恒温器内で花粉を発芽させ、その発芽率を確認し、翌10日の夕方に生産者に結果を報告した。

農林事務所は、なしの安定生産のために支援を継続していく。



【なし花粉の発芽の様子】

■バラ I P Mの取り組みを開始

4月16日、切バラ栽培におけるI P Mの普及・推進にむけ、対象となる神戸町の生産者ほ場において検討を行った。

今回の取り組みは、グリーンな栽培体系加速化事業を利用し、天敵カブリダニによるハダニ防除やUV-Bライトを利用した病害防除の技術について実証を行う計画である。

農林事務所は、生産者に事業の情報提供や病害虫の予察・発生調査を行い、円滑な事業実施に向けて支援していく。



【I P M実証ほの様子】